



2011.4.15
No.166

編集 樋口 みな子

E-mail minginga@agate
.plala.or.jp
http://briefcase.yahoo.c
o.jp/bc/ginganews150
郵便振替「銀河通信」
02740-7-56535
(郵送6号分1,000円)

東日本大震災から1ヶ月 被災地に心をよせて

3月11日、東日本をおそった未曾有の大地震、大津波で亡くなった方たちのご冥福と被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

また大震災によって福島原発の重大事故が起きたことから放射線による被害が今も続いています。大きな悲しみのさなかにいる人たちにかける言葉が見つかりません。でもいつも心をよせて暮らしています。銀河通信を書くことにもためらいがありました。

私の父の故郷は福島県です。生まれは矢祭町ですが、いわき市久ノ浜に長年叔父夫婦が暮らしていました。叔父は早くに亡くなっていますが、高齢の叔母が被災しました。家が流され、孫と栃木の知人宅に身を寄せています。震災から10日たってから、私の母に連絡がありました。生きていて良かったです。子どもの頃に何度か訪れたことがある久ノ浜は田園風景の美しい町でした。福島は原発の事故もありまさに三重苦です。

福島原発事故が、チェルノブイリ事故と並んでレベル7に引き上げられました。今は亡き高木仁三郎さんが、科学者として反原発を訴え、泊原発に反対する運動の時にも、講演して下さったことを思い出します。科学とは市民の不安を共有し、未来への希望に基づいて科学を方向づけていくこと。未来が見えなくなった地球の将来に対して、未来への道筋をつけて、人々に希望を与えることと話されました。高木さんは反原発出前講座を提唱され、私も20年前少しだけ勉強しました。電気があふれる便利な生活に慣れてしまいましたが、少し不自由でも安心して暮らしたいです。電気がなくては命を維持できない人のことも



心にとめながら、原発なしで暮らせるような社会、いっきには無理でも太陽光発電などの自然エネルギーに転換して行って欲しいです。

被災した人たちの苦しみや悲しさとは比べものにはなりません。野幌の新居に札幌から引っ越してきて3日目に夫が病に倒れた頃を思い出します。息子は保育園児で、私は仕事を終えてから夫の入院する病室をたずね、帰宅するのが連日夜の8時過ぎ。息子の迎えを近所に住む父がしていました。最初の頃は病名もわからず、この先どうなるのかと途方にくれました。疲れ切って息子と暗い家に帰ると、玄関に一輪の花がさしてあったのです。母が飾ってくれたのでした。まさに希望の一輪でした。

東日本大震災から1ヶ月。避難所で暮らす人たちは疲労もピークに達していると思います。新聞の一面に、いわき市久ノ浜で、津波に耐えて咲いた希望の一輪の写真がありました。サクラです。近所の人が「希望のサクラ。元気と勇気をもたらした」と語っていたのが心に残り、私も春の花を探してみました。野幌森林公園では、雪解け水が、春の光を浴びてきらきら光っていました。(右写真 4.13)



4.15 自宅庭のふきのとう



大学と社会を結んだ小野有五先生 最終講義に400人！



市民のための科学者として活躍されてきた小野有五先生（北大大学院地球環境科学研究所教授）の退職記念最終講義が3月18日（金）に北大クラーク会館で開かれました。東日本大震災で参加者が少なくなるのではと心配しましたが、市民や教え子など400人が熱心に耳を傾けました。（写真・講演する小野有五さん）

小野先生は、25年間を教育と研究、そして活動について4つのテーマを①氷河・周氷期・第四紀に関する研究と活動 ②森と川の保全を目指す研究と活動③自然エネルギー・反原発・市民科学をめざす研究と活動④アイヌ民族の権利回復を目指す研究と活動に分け講義を始めました。

氷河をテーマに研究を続けましたが、ヒマラヤでの野外調査の中で、森を伐採する科学に疑問を持ちました。1986年に日本で唯一、修士課程から博士課程まである、環境科学の大学院がある北大に赴任しました。2つの大きな出会いだったのは川であり、シマフクロウでした。イトウを絶滅から救う研究がしたいと講座に入った福島路生さん（現・国立環境科学研究所主任研究員）と道北の猿払川に入ったことがきっかけで「北海道の森と川を語る会」を立ち上げました。

ゴルフ場建設反対運動が起きていた根室の森でシマフクロウに出会います。「建設すれば絶滅するのを知りながら反対しないのなら、何のための科学か」というシマフクロウに問いかけてらるる感じの小野先生。開発局と議論の末、千歳川放水路建設計画を中止に追い込み、サンルダム建設反対運動にも積極的に取り組んできました。アイヌ語地名を元の発音通りの仮名書きを併記させる運動、アイヌ民族の権利回復の運動にも関わってきました。今回の震災にも触れ、原発推進の科学が分析に集中して対策の遅れをもたらした現状を批判し「命に関わることは、止めるのが原則。人間が処理できないものはつくってはならない」と訴えました。福島原発だけでなく泊原発もプレート境界に近いことが分かっており、稼働は中止すべきだと話しました。



3.18 小野先生を囲む会で

大学と社会を結んだ25年間の研究と活動はまさにA Long and Winding Road でした。最後に環境科学が水俣病や、そのほかの公害で苦しんだ患者さんたちのうえにできたこと。環境科学を必要としている一人一人のこと、絶滅に瀕している生きもののことをImagineして欲しいと締めくくりました。

時々声を詰まらせて話す先生のご苦勞は、私も長年、さまざまな活動でそばで見えていたので感無量でした。

3.11の大震災の被害に遭ったり、交通事情で来られなくなっ

たりで小野先生の教え子4人のリレーセッションはありませんでしたが、市民からみた小野先生について弁護士の市川守弘さんが「科学は市民のために、社会の発展のためにという姿勢から、決して誰にもおもねることなく自らの信念を貫きました」と讃えました。アイヌ民族の権利回復運動の立場から結城幸司さんが先住民族サミットと七五郎沢のキツネをDVDで紹介しました。

東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌からも募金の訴えがあり10万円の募金が集まりました。

当日は発起人をはじめ小野教室の学生も多数、クラーク会館に集まり、記念誌とさまざまな市民運動を伝えるチラシや、講演会の感想アンケートなどを500部セットしました。

場所をロイトンホテルに移しての小野先生を囲む会は、震災で道外から参加予定者のキャンセルが多かったため、当日も参加も受け付けました。

発起人代表は北大低温科学研究所の白岩孝行さん、受付と、囲む会の司会を担当したのが石丸聡さん（地質研究所）と私でした。私以外はみんな小野先生の教え子で学究の方たちばかりです。どなたも小野先生のために力を尽くし、心優しい紳士でした。

小野先生を囲む会の開催が危ぶまれましたが、100人を超える多彩な顔ぶれが駆けつけ、先生がどれほどたくさんの人から慕われ、頼りにされていたかを改めて知り、記念講演会の発起人を引き受けて良かったなと思いました。

（写真は白岩孝行さんと実行委員会）



3月27日 晴れ。雪山ガイドの取材で山メーリングリストの友人yoshioさんとisamuさんに協力をお願いし、野幌を6:15出発。高速で銭函まで出てキロロ廻りで倶知安に向かいました。倶知安は曇り空。8:20にはポイントサン橋までつきましたが、大きな駐車スペースは除雪車の回転場所のため使用できず、ザックやスキーをおろし、運転者だけ2km先の駐車場に車を置きに。歩くと20分です。9:00取り付きは壁になっておりようやく上がりました。もう3月も末だというのに、約20センチの新雪のラッセルが待っていました。重い雪のラッセルを交代しながら、やや急な斜面を右に向かって進むと、なだらかな台地にでました。でも視界はなく、羊蹄山は雲の中でした。残念！ダケカンバの森の中を進



3.27 ポンクト山に向かって



撮影・2枚とも仲俣善雄さん

むと目指す本俱登山が見えてきました。気持ちのいい広い台地ですが雪が重たい。二人組の別のパーティーと、ラッセルを交代しながら進めたので、少し楽でしたが。頂上直下980mに12:05。ここからが厳しい急斜面です。少し登ると凍った斜面から一気にずり落ちそうで危険なので、スキーをデポ。先行した二人組が作ってくれた足場を頼りにつぼ足で頂上に登りました。12:30 到着。羊蹄山は半分雲の中にあいました。

頂上下のなだらかな斜面でランチにし13:30 下山を開始。2年前に登った時は登り返しは全くなかった記憶がありました。5~6回の登り返しを経て登山口に14:30到着。時々、晴れ間も見えましたが、ニセコ連山、余市岳などの眺望はなかつ

たのが残念でした。

2年前に登った時は、快晴で広い台地を羊蹄山を眺めながら楽しく登りましたが、今年は春山にしては雪が多く、頂上直下からの登りは雪崩斜面で危険です。事故が起きてからでは遅いので、雪山ガイドへの掲載は断念しました。

主脈南下縦走のルート確認登山に同行して

主脈縦走に長い間取り組んでいらっしゃる新妻さんにichiroさんが同行すると計画書をたまたまインターネットで知り、参加を決めました。3月31日南幌のichiroさんにピックアップしてもらい、新妻宅を6:50出発。えりもに向かいました。

足まわりは林道の状況で決めるとのこと、山スキー、スノーシューを用意する。えりもの笛舞からアベヤキ川林道と幌満ダム、オピラルカオマップ林道 ニカンベツ林道を車で確認する。積雪期の林道アプローチが最終主脈縦走の下山時の大事なポイントになると



4.1 左にニカンベツ岳を望む

のこと。私は朝から9時間も車に乗っていたせいか、軽い車酔いしたようです。林道にはたくさんのシカの糞が落ちていました。なるべくシカ道を避けてテントを張りました。

食料のパッキングの仕方や、山道具の有効な使い方等、先人の知恵に学ぶことが多かったです。

4月1日(金)BC7:45ニカンベツ林道を行き清流橋をわたって8:00に車を置く。林道のツボ足踏査となるが、雪が柔らかく、ズボツ、ズボツと埋まりちょっと疲れました。



800m付近

ニカンベツ岳SW(南西)尾根862mを目標に試登し、ニカンベツ川源頭地形を確認しました。11:45尾根取り付き、12:00標高800m付近までで引き返す。上二股13:00 砂防ダム13:50 駐車地点 15:00札幌帰着20:00

初めて新妻さんの主脈縦走のルート確認登山に参加しましたが、地図がすっかり頭に入っているのに感嘆しました。地図はさまざまな情報の宝庫ですね。

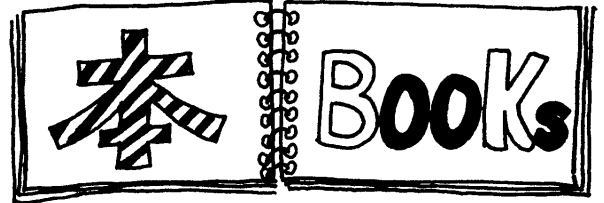




魚附林の地球環境学

親潮・オホーツク海を育むアムール川

白岩孝行著 昭和堂 2300円＋税



世界有数の水産資源を誇る親潮・オホーツク海。その豊かさの秘密は何か。その解明に挑んだ7年にわたるプロジェクトの道のりをリーダーである科学者、白岩孝行さんがまとめたのが本書です。専門用語を出来るだけ使わず、読者に丁寧に伝えようとしているのがよくわかり、科学する楽しさを味わうことができました。写真や図も多数あり、理解を助ける工夫が随所にあります。

白岩さんとの出会いは、小野有五さんの定年記念講演会の発起人の集まりでした。最終講義の準備ではメンバーにこうして下さいと強制はしないのに、どの人もそれぞれの役割を果たしていました。おおらかで誠実な白岩さんの人間性のたまものだと思います。

氷河を研究し、1993年から2年間、第35次南極観測隊の汽水圏隊員として参加した山男でもあります。そんな白岩さんが海に関わることになったのは・・・と興味津々で読みました。

まず本の表紙写真の美しさに見入ってしまいました。白岩さんご本人が撮った壮大な写真は、カムチャッカ半島のクロノツキー自然保護区を流れる、ボルシャヤ・チャズマ川。ヘリコプターから撮影した写真には、山の上の氷河から海までが一枚の写真に収まっています。

プロジェクトに日本、ロシア、中国から参加した研究者は約100人。オホーツク海や親潮にもたらす生産性の豊かさは、アムール川が輸送す溶存鉄に依っているという仮説をフィールドワークで明らかにしました。特にアムール川の河口とアムール川の汽水域での観測船による観測が重要でした。ところが、外国人が立ち入ることをロシア軍が認めないため難航します。長い交渉を重ね、ようやく船を出航させますが、今度は違法な観測と勘違いされてKGBに捕まったり。ひとつひとつの検証もドラマチックですが、他国の理解を得ながら進む苦労も並大抵ではありません。

高い溶存鉄を供給する場所は。アムール川流域の湿原であることを突き止めます。その湿原は森林地帯の状態に大きく依存していると言います。アムール川流域とオホーツク海・親潮の結びつきは、巨大な魚附林と呼ぶべきではないかと白岩さんは主張します。たどり着いたのは「森が海を育てる」という日本古来の魚附林でした。ここまでのプロセスは、本書をお読み下さい。

プロジェクトは09年度に終了しましたが、白岩さんは自問します。「アムール川流域では急激な土地利用で、湿原が急速に失われている。地球温暖化で、オホーツク海の海水を減少させている。略 このまま黙って見ていいのか？」と。白岩さんらはアムール川の環境保全や情報交換のために国を超えたネットワークを立ち上げました。今後の活動に期待したいです。

今回の大震災で被害を受けた気仙沼の畠山重篤さんが、「森と海の関わりが解明されるたびに筆者の興奮は高まっていった。読者も興奮の坩堝に吸い込まれてしまう。」と推薦文をよせています。畠山さんは「森は海の恋人」運動を続けて来られ養殖業をされながら「牡蠣の森を慕う会」の代表として活躍されています。ご本人の無事は確認できたそうです。一日も早い復興を応援しています。

宮澤賢治と幻の恋人

澤田キヌを追って

澤村修治著 河出書房新社

2400円＋税



女性を忌避したと言われる宮澤賢治の知られざる恋を追ったノンフィクションです。

著者はキヌの甥に当たる東京理科大学の澤田利夫教授から「実家の蔵に賢治の手紙がたくさんあったらしい」と聞き、取材を始めます。本書では、キヌの他にも賢治の生涯を彩った女性も紹介。初恋の女性、高橋ミネ、押しかけ女房的存在だったとされる高瀬露、周

囲に「結婚するかもしれない」と漏らした伊東チエらが登場し、恋をする普通の青年の側面を明らかにしています。

澤田キヌは賢治の農学校時代の教え子の姉であり、当時看護学校に通っていた学生でした。賢治は家庭訪問などで、北上市にあったキヌの実家を訪れていたという。賢治がキヌへの思いを募らせたのは、キヌが盛岡氏の日赤病院で働いていた1924年頃のこと。盛んにラブレターを送ったが、キヌにはその気がなかったようです。当時は家柄の違いでつきあいも制限されたようです。キヌの父親から「もう近づかないでくれ」と拒否され、手紙も消却されたと言います。残っていたら、どれほど貴重な資料になったでしょう。残念です。初恋の女性高橋ミネも看護婦でした。著者はこうも書きます。「人を助けるため、けなげに働く者、騒々しい中で静かにふるまい、与えられた仕事にひたむきにまい進する者への思慕。初恋がファーストインプレッションとなって、賢治の恋愛観に形をもたせたと。自立した女性が好きだった賢治は、時代の先端を行く人でもあったのですね。」

著者は「冬のスケッチ」について「初恋の人ミネの残像を引きずる詩想をもって書かれたが 略 キヌを知り賢治の側で恋が始まった。その中で聖職の女、看護婦としてミネとキヌが重なりあってひとつの恋人のイメージとして合体された」と推察しています。

日本赤十字社岩手支部が自前で救援看護婦を養成する必要に迫られたのは、1896年6月15日の三陸大津波だったという歴史があります。死者、行方不明者は22,000人。その2ヶ月後に賢治は生まれています。今回の東日本大震災の後に読んだので、賢治の童話の世界が無くなったのが悲しかったです。

戦時中の看護婦の仕事もキヌの部下だった女性から取材しています。過酷な戦場の看護は想像を絶していました。キヌは戦場で発疹チフスを発症して亡くなっています。44歳でした。

賢治は病室で、誰かに残そうという意図はなしに書いたとされる美しい詩があります。きみにならびて野にたてば、風きらゝかに吹ききたり、柏ばやしをとどろかし、枯れ葉を雪にまろばしぬ。げにもひかりの群青や、山のけむりのこなたにも、鳥はその巢やつろはん、ちぎれの艸をついばみぬ。

賢治と静かに並んで広野に立つ女性が、目に浮かぶようです。

大学と社会を結んで25年

北海道大学・大学院地球環境科学研究院
教授 小野有五

編集・発行「小野有五先生のご定年を祝う会」 1000円

(但しそのうち500円を東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌むすびばに寄付します。振り込み手数料はご負担してください。)

本書は3月に開かれた小野有五さんの定年最終講義と、北海道大学に赴任後の論文・著作と活動、教え子や市民運動でつながった人たち28人の小野先生へのメッセージの3部で構成されています。

最終講義については2ページで紹介しましたので省略します。第2部で当時の大学院生たちとの北極圏スヴァールバル諸島の永久凍土の調査のエピソードや森と川に関する研究と活動、千歳川放水路問題、サンルダム問題、山岳地域の管理と保全、アイヌ民族の権利回復、アイヌ語地名併記運動、知里幸恵記念館建設反対運動などを時系列で紹介。大学と社会を結ぶ科学を実践されてきました。それは環境問題に関する多数の著書からも市民科学者として生きる小野先生の姿勢が伝わってきます。ひとことで言い尽くせない多岐にわたる分野で発信を続けてこられた小野先生。改めて敬意を表したいと思います。

3部の小野先生へのメッセージ。市民運動の仲間には私の知っている人が多かったのでその発言は予想できたけれど、教え子たちのメッセージが面白かったです。

吉川謙二さん(アラスカ大学フェアバンクス校)は院生の時、南極環境調査のために南極点までソリを引いて歩くという探検を企画して成功。大きな話題になった人です。小野先生を柔軟なリーダーシップの結果、学生たちがより自由な研究に取り組むことが出来、新しいパラダイムへの移行が出来る下地を生んだと思うと書いています。イトウを絶滅から救う研究をしたいと講座に入った福島路生さん(国立環境研究所主任研究員)はアラスカの川でのサケの生態研究を紹介したときのエピソードに触れて、自分で工夫して製作した調査道具一式とフィールドの入り口までそのすべてを背負った自分が乗る自転車とを一枚の写真で紹介したことが好評だったこと。限られた体力と知力とだけを使い、いかに効率よく取得してくるのに知恵を絞ることを学んだ小野研究室の研究哲学がその一枚の写真に凝縮されていたのかも知れませんか書いています。

記念講演会の発起人代表である白岩孝行さん(北海道大学低温科学研究所)は小野先生の口癖のひとつに「そりゃそーでしょ」というのがあった。一生懸命考えてもっていったアイデアがこのひとことで木っ端みじんに打ち砕かれるのが頭痛のタネだった。小野先生とは違うテーマを探し、師匠を追い越したいと努力してきたけれど、師匠の足跡の上を歩いていることに気がついたと。

大学の権威にとらわれない先生の元に集まった学生たちも、また十分に変わり者たちでした。それぞれの人が自分の研究を生かした仕事をし、社会に発信している生き方がすてきです。

(申し込みは樋口みな子fax011-382-9020又はminginga@agate.plala.or.jp)

もう一度読みたかった本 柳田邦男著 平凡社ライブラリー 780円



悲しみや苦しみの中にいる人にとって、本の一行でパッと心が明るくなったことってありませんか？私は本があったから、なんとか道を踏み外さないで生きて来られたと思っています。父の仕事の都合で、何度も転校を余儀なくされました。小学校は5回、中学は2回変わりました。豊かではないけれど、父も本をよく読む人でしたので、誕生日のプレゼントは素敵な表紙の本でした。何が私を形作っているのかは自分でもわからないけれど、寂しさや、

悲しさを本からずいぶん助けてもらったなあと思います。

この本は、柳田邦男さんが少年時代から青春時代に読んだ24編を再読。井上靖「あすなろ物語」、ヘミングウェイ「老人と海」、ゴーゴリ「外套」、サン・テグジュペリ「夜間飛行」など。柳田さんの青春時代を振り返る自叙伝でもあります。

柳田さんは「若き日々を読みふけた本を再読することは、普段は忘れていた地下に広がる根、人生の幹や枝葉に暴風や日照りにも耐える力を与えてくれる地下の根っこをもう一度、透視画像として映し出して確かめる作業」と言います。本書は、当時読んで心ひかれた場面や一節を踏まえつつ、別の角度から光を当てることで、作品の新たな魅力を引き出しています。

私も青春時代に読んだ本が何冊もありました、「夜間飛行」「あすなる物語」「チップス先生さようなら」等。この本にはなかったけれど中学の時に読んだ「アンネの日記」は、アンネが極限の状況の中で自分の心を見つめ書きつづった日記。私はどれほど勇気づけられたかしれません。

今年は自分を見つめ直す転機になりそうです。図書館で、青春時代に読んだ本を探してみようかなと思いました。

映画



シチリア！シチリア！

イタリア ジュゼッペ・トルナーレ監督

シチリアの町、バーリアを舞台に1930年代から80年代まで、世界の出来事を交えながら描かれた主人公ペッピーノと家族の物語です。監督の父の半生を描き、戦後シチリアと自身の生き立ちを振り返ります。

ペッピーノは地主たちの無法な行いやファシストたちの乱暴に怒ります。抵抗する庶民の姿が描かれ共感しました。大戦の終わり、青年になったペッピーノは理想に燃えてイタリア共産党に入党します。当時の時代状況を知らないとう理解しにくいところもありましたが、監督の父（ペッピーノ）たちの志は後の世代でも消えていません。激動の時代を生き抜いたペッピーノ家族と彼らを取り巻く人々の愛と絆のドラマを壮大なスケールで見せてくれました。豊かな自然光を取り入れた映像が当時のイタリアを見事に再現しています。「ニューシネマパラダイス」や「海の上のピアニスト」「マレーナ」等の名作で知られる監督ですが、モリコーネの音楽も素晴らしかったです。南イタリア地方で古くから使われてきた民族楽器も取り入れ、情感豊かな音楽が心に残りました。

「シチリア人である誇りを失わず、故郷の風を一瞬たりとも忘れたことはない」と語るトルナーレ監督の思いが詰まった映画です。たくましく生き抜く家族のきずなの強さと愛に感動しました。監督の名作の源を知った思いがしました。もうずいぶん前に観た映画ですが、是非DVDで観てください。

英国王のスピーチ

英・オーストラリア トム・フーパー監督



吃音を克服していく英国王ジョージ6世の実話を映画化。

子どもの頃に受けた深い心の傷で吃音になったジョージ6世（コリン・ファース）は妻エリザベス（ヘレナ・ボナム＝カーター）の勧めで、スピーチ矯正の専門家ライオネル（ジェフリー・ラッシュ）を訪ねます。ライオネルは診察室で対等を貫き、ジョージの心の問題を解きほぐし、型破りな治療をします。

ジョージの性格と苦悩を理解し、ライオネルは励まし続けます。二人の間に身分の違いを超えて友情が培われていきます。

ヒトラー・ドイツとの開戦に突入した時、ジョージ6世が国民に向けて「勝利のために団結を」と呼びかけるスピーチに国民も、皇室関係者も固唾をのんで耳を傾けるシーン。ライオネルの治療の効果が試される時です。大成功！吃音を見事に克服した姿がそこにありました。

この映画の撮影直前、実在したライオネルの日記などを、撮影スタッフが見つけるという幸運に恵まれたそうです。コリン・ファースらの名演技の下敷きになったとか。監督にとっては、宝の山だったそうです。「W」の発音をとちった国王が「わざとやったんだ。私が話していると国民がわかるように」と語る印象的な場面も日記から生まれたそうです。



トゥルー・グリット

米 コーエン兄弟監督

南北戦争直後のアーカンソー州、父を雇い人に殺されたマティ（ヘイリー・スタインフェルド）は14歳。父の遺体を引き取りにきて、保安官コグバーン（ジェフ・ブリッジス）に犯人の追跡を依頼します。別の容疑で同じ犯人を捜していたラビーフ（マット・ディモン）も加え、旅を続けます。

マティの何としても父のかたきをうつという意志の強さに圧倒されます。マティは頭が良く、生意気だけど、健気な一途さにコグバーンもラビーフも何とか助けてやりたいと変わって行きます。河を渡り、丘を越え、荒れ地を横切り、山岳地帯では、不意の雪も舞います。難所を次々と進んでいく風景は厳しくも美しい。マティはスケールの大きな自然と対峙し、コグバーンらの優しさにも触れ成長していきます。

物語はとてもシンプル。マディを演じたヘイリー・スタインフェルドの潔さに引きつけられました。演技を超えているように思えました。正しいと思ったことはまっすぐに進むマディから勇気をもらいました。

東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌（むすびば）に あなたのお力を貸してください。

つながる むすびば



●東北国際クリニック
震災地 名取市にある国際医療支援も行う病院です。今回の震災には現地医療機関として不眠不休で患者さんのケアにあたっています。内科・外科そして心のケアも重点を置いています。院長 桑山紀彦氏はNHKでも取り上げられた医師です。

東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌（通称むすびば）

北海道、札幌ようこそ！皆さんが安心して生活できるよう、精一杯努めます。
私たちは、むすびば「うけいれ隊」です。



「むすびば」は、札幌市民と学生、札幌で活動するNPOメンバーなどで構成されているNPO団体です。この度の震災被災者の皆さんに対し、さまざまな支援をするために、活動を開始しました。「うけいれ隊」は、一時避難にいられた被災者の方、移住を考えている被災者の方に、少しでも札幌で安心して、心地よい生活をしてもらいたいと思い、活動を始めた「むすびば」のプロジェクトの一つです。どうぞよろしく、お願いいたします。

うけいれ隊の活動内容

札幌近郊にいられた震災被災者の方への支援

① 公共交通情報サポート
無償：NPO法人交通まちづくりコンソーシアム ゆうらん協力

② 買い物サポート
無償：すぐ必要なもの、安い場所、買い物が不明などのサポート

③ 家財家電の提供サポート
無償：必要な家財・家電の情報を集めて、情報提供 運搬作業などをボランティアで実施

④ 生活情報サポート
無償：学校、病院、公共施設などの場所や内容などを情報提供

⑤ 心と体へのサポート
無償：マッサージ、カウンセリングなどをボランティアで実施

⑥ お出かけサポート
実費のみ：温泉など一緒に楽しむ、観光地を巡るなど

うけいれ隊から、震災被害で困っているあなたへ

私たちは、上記のボランティア活動をしています。何か困ったこと、聞きたいこと、支援を受けたい時は、うけいれ隊（またはむすびば）に、電話かメールで連絡をお願いします。

うけいれ隊の連絡先：090-7057-6336
ukeire2011@gmail.com

むすびばの連絡先：080-4049-4622 info@shien-do.com

むすびばのパンフレットから写真と活動を許可を得て編集しました。

東日本大震災で被災した方たちが、札幌や周辺の都市に避難してきています。少しでも札幌で安心して、心地よく生活してもらいたいとむすびばを立ち上げました。左下の連絡先に是非登録をお願いします。事務局は札幌エルプラザ2F市民活動サポートセンター内（札幌市北区北8条西3丁目）です。5ページで紹介した小野先生の記念誌の半額をむすびばに寄付したいと思えます。支援活動にご協力をお願いします。

● チームやんじー災害救援プロジェクト

宮城県に入ってから、一週間が過ぎました。ブログで毎日更新しているように、炊き出しの毎日です。現在は、仙台の倉庫に拠点をおき、石巻市内の専修大の宮城ボランティアセンターや、め組JAPANなどと連携し大量の炊き出しを行っています。場所は、壊滅的な被害を受けた南三陸町、石巻市内の地区を炊き出ししてきました。（3.31）



mouth mountain やんじーのブログ
<http://mouth-mountain.greenwebbs.net/>



●NPO 法人自然学校「ねおす」の災害支援隊震災直後に釜石市栗林地区に現地入りし、地区の集会所を拠点に、子どものストレスケア・児童保育活動、青空喫茶、フリーマーケット、高齢者のデイケア活動、炊き出しなどの支援活動を行っています。今後は地域内、地域外のネットワーク化を図り、協働の体制を構築しながら、ツーリズム的な地域おこし・地域づくりも視野にいたした長期に渡る復興支援を行っていきます。ねおすの支援活動ブログ http://blog.goo.ne.jp/neos_hokkaido

命の水を求めて

～アフガニスタンの復興へ～

ペシャワール会代表
中村 哲さんを迎えて



2011年
5月21日 (土)
18:30～
エルプラザホール

(札幌市北区北8西3)

パレスチナ、イラク、アフガニスタンなどで引き続き続く戦争と混乱、そしてチェニジア、エジプトから始まった自由を求める民衆の蜂起・世界が大きく動いている中で、平和憲法を持つ私たちがなすべき国際貢献・人道支援のあり方を身をもって示しつづけている中村哲さんをお迎えします。

前売券 800円 (当日券 1000円)
高校生以下と
障害をお持ちの方は、無料です
★札幌市内プレイガイドでお買い求め下さい

—昨年の講演会では、現地の水害復旧のために来日が出来ませんでした。多くの方々のリクエストに応じて、今回はその「お返し」も含めて来れただけになりました。

主催 医療九条の会・北海道

後援 札幌市 札幌市教育委員会

連絡先 札幌市北区北14西3 1-12 TEL (011) 758-4585 FAX (011) 716-3927 9jyo@dominiren.jp

アフガニスタンで医療活動を行いながら、命の水を求めて井戸を掘ってきた中村哲さん。アフガニスタン。パキстанは昨年、未曾有の大洪水に襲われました。そのうえに、アメリカ軍の空爆が休むことなく続いているそうです。

中村哲さんの本は何冊も読んでいるのですがお目にかかるのは初めてです。市民講演会に是非ご参加ください。

購読料をありがとうございます
(敬称略) 2/17～4/15

土本武司 (札幌市) 2000円 新井喜美子 (北広島市) 3000円 (カンパ含む) 六百田麗子 (福岡市) 1000円 片山篤子 (札幌市) 5000円 (カンパ含む) 蕪沢ちよ (江別市) 1000円 三浦恵美子 (旭川市) 2000円 (カンパ含む) 新妻徹 (札幌市) 3000円 (カンパ含む) 松川洋子 (札幌市) 3000円 (カンパ含む) 安田成男 (札幌市) 2000円 高橋裕之・秀子 2000円 (カンパ含む) 河村健 (札幌市) 1000円 白岩孝行 (札幌市) 著者 梅沢俊 (札幌市) 著書 石丸聡 (札幌市) 南極環境調査報告書

合計25,000円は印刷と送料に使わせていただきます。ありがとうございました。



みな子さんと呼んでください

仕事を途中退職して9年になります。今も医療現場は大変ですが、検査科も医療再編が行われるという時でした。苦しくても続けられなかったことが、残って頑張っている人たちに申し訳ないという気持ちがずっとありました。そこに高山植物保護ネットと山岳会があったのです。当時、山岳会では私は若いほう。あれもやって、これもやってと言われていたうちに会の自然保護委員長を引き受けてしまいました。4年間でしたが、この4月からは晴れて自由人です。少しの間、心の中に穴が空いたような気持ちがしました。父の見舞いに行きながら毎日、読書。少し時間にゆとり

がある時は映画も見ました。これからの人生はもっと自分のために使おう。逆説的だけど一生懸命にやらない。新たな10年の楽しみを見つけようと思いました。ランタン谷にも行きたいし、アウシュビッツの歴史の旅もしたい。山の基本の技術を学びたいです。日々新しい人になりたいと努力中です。時間が出来たので、本ももう少し深く味わいたいと思っています。銀河通信も8ページにこだわらなくてもいいのかな?と思います。

先日、ヒマラヤ映画祭に行ってきました。「思いを運ぶ手紙」は「山の郵便配達」のドキュメンタリー版。洪水で、橋が流されたり、崖をよじのぼったり、突然の吹雪など、標高4000mの山中を26年間、郵便配達してきた男性を追った映画がすごく良かったです。働くことの貴さが胸に迫りました。17歳の少年が学費と生活費を稼ぐためにポーターとして働いている「コーラと少年」。少年の希望が実ればいいなと母の目で見っていました。

震災もあり、銀河通信の編集になかなか気持ちを持って行けませんでした。書いているうちに、気持ちの整理ができました。元気です。これからはみな子さんと呼んでくださいね。銀河通信は23年目。25年までは続けるつもりです。何の取り柄もありますが、達成の時は自分のために両腕いっぱいこのバラを買って祝いたいと思っています。これからもご愛読よろしくお願ひ致します。

新張岳ヒュッテ



河村健さんイラスト：新しい夕張岳ヒュッテ案